【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】令和3年1月28日(2021.1.28)

【公表番号】特表2018-531188(P2018-531188A)
【公表日】平成30年10月25日(2018.10.25)
【年通号数】公開・登録公報2018-041
【出願番号】特願2018-521056(P2018-521056)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｄ　85/10　(2006.01)
Ｂ６５Ｄ　75/54　(2006.01)
Ｂ６５Ｄ　5/44　(2006.01)
Ｂ６５Ｄ　5/66　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｄ　85/10
Ｂ６５Ｄ　75/54
Ｂ６５Ｄ　5/44　Ｍ
Ｂ６５Ｄ　5/44　Ｕ
Ｂ６５Ｄ　5/66　３２１Ｂ

【誤訳訂正書】
【提出日】令和2年12月11日(2020.12.11)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
内側ライナーを切断して内側パッケージ（３０）の開口部（５４）を形成することであって、前記内側ライナーが、外部表面（３３）および内部表面を含む、形成することと、
インサート（６０）を前記内側ライナーの前記外部表面上に最初に取り付けることと、
再密封可能なラベル（４５）を、前記開口部を形成する切断部を覆うように、前記インサートの部分と前記内側ライナーの前記外部表面の部分の両方にわたって、その後に取り付けることであって、前記再密封可能なラベルが、内部表面（５３）および外部表面（５１）をもち、前記再密封可能なラベルの内部表面が、密封領域（４６）および非密封領域（４７）を含み、前記再密封可能なラベルの内部表面の前記非密封領域のみが、前記インサート上に配置される、取り付けることと、
消費財を前記内側ライナーで包装して、消費財の束を形成することと、
容器（１０）を前記消費財の束の周りに形成することであって、前記インサートが、前記内側ライナーと前記容器との間に位置付けられ、前記容器が、ボックス（１４）および前記ボックスにヒンジ止めされるリッド（２０）を備える、形成することと、を含む方法。
【請求項２】
インサートを前記内側ライナーの前記外部表面上に取り付ける工程が、接着剤の塗布を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
インサートを前記内側ライナーの前記外部表面上に取り付ける工程が、マイクロ吸引特徴の利用を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項４】

前記マイクロ吸引特徴が前記内側ライナー上にある、請求項３に記載の方法。
【請求項５】
前記マイクロ吸引特徴が前記インサート上にある、請求項３に記載の方法。
【請求項６】
前記インサートが、前記内側ライナーの前部壁（３２）の前記外部表面に取り付けられる、請求項１に記載の方法。
【請求項７】
前記開口部が切断される前に前記内側ライナーにエンボス加工することをさらに含む、請求項１に記載の方法。
【請求項８】
前記再密封可能なラベルの前記外部表面を前記リッドの内部表面（２２）に取り付けることをさらに含む、請求項１に記載の方法。
【請求項９】
前記束が前記内側ライナーを用いて形成される前に、内側フレームを前記消費財の周りに形成することをさらに含む、請求項１に記載の方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００２】
コミュニケーション（情報伝達）の手段としてインサートを使用することが、産業分野において一般的である。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００９】
本発明の様々な態様は、現時点で入手可能であるかまたはこれまでに説明されている容器および方法に対して１つ以上の利点を提供しうる。例えば、本容器は、本発明の時点までは組み合わせることができなかった、自動的に再密封可能な特徴をインサートの使用と組み合わせる。さらに、インサートが少なくとも部分的にラベルの下側にあることを許容することにより、インサートのための追加的な空間が、部分的重複のないインサートと比較して利用できるようになる。このことは特に、自動的に再密封可能なパックに関して重要であり、ここにおいて、ラベルの下部端は、リッドの内側に取り付けられる。このことは、ラベルの外側にインサートを配置することを抑制し、他の点では、ラベルとリッドの接続を妨げるであろう。有利には、追加的な空間は、インサートへのアクセスを容易にするために用いられうる。さらに、追加的なコミュニケーション手段の空間が利用できる。さらに、本容器は、２つの特徴の組み合わせを可能とするが、内側の特徴の自動的閉じ込めの適切な機能性を損失しない。さらに、本明細書で開示される方法は、標準的な密封包装プロセス装置およびほとんどまたは全く変更されないプロセスを用いて行われ、それにより、製造の複雑さまたは費用が増大せず、インサートをもつ機能的に再密封可能な容器を提供することができる。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２９】

上述したように、有利には、追加的な空間は、インサートへのアクセスを容易にするために用いられうる。さらに、追加的なコミュニケーション手段の空間が利用できる。再密封可能なラベルは、消費財に個別にアクセスするために内側パッケージを繰り返し開閉できるようにする。再密封可能なラベルは、少なくとも内側パッケージ内の消費財の個数と同じ回数だけフラップを再び取り付けるための十分な接着を提供することが好ましい。再密封可能なラベルは、パッケージが空になるまで、消費者が内側パッケージを開封および再密封できるようにすることが好ましい。

【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３２】
容器はまたインサートを備える。インサートはコミュニケーション（情報伝達）のために利用されうる。インサートは、任意の適切な材料を含むことができ、またはそれらから作られうる。例えば、インサートは厚紙、板紙、紙、プラスチック、金属、またはそれらの組み合わせを含むことができる。インサートの上に、例えば、任意の公知の印刷技法を使用して印刷することができる。インサートは、利用できるコミュニケーション手段の空間を増加するために折り曲げることができる。インサートを、長手方向、または横断方向、または長手方向と横断方向との両方に折り曲げることができる。インサートの少なくとも１つの寸法（全体であってもまたは折り曲げたものであっても）、例えば、インサートの高さは、ボックスの前部壁の高さより小さくすることができることが好ましい。インサートの長さは、前部壁の長さの最も長い長手方向の長さとアクセス領域の面積における前部壁の長さとの間であることが好ましい。そのような構成により、インサートの最大長さの使用が可能となる。インサートのその他の寸法（全体であってもまたは折り曲げたものであっても）、例えば、インサートの幅は、ボックスの前部の幅より小さくすることができることが好ましい。インサートを、１回、２回、またはそれより多い回数折り曲げる能力のために、インサートの全体的な表面積をボックスの前部壁より大きくすることができる。

【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３９】
いくつかの例示的方法はまた、内側ライナーを打ち出す工程（エンボス加工）を含みうる。この工程は、内側ライナーを切断する前に、後に、またはその両方において達成されうる。内側ライナーを打ち出す工程は、消費財の周りに内側パッケージを形成するのに利用される折り目線を提供するために利用されうる。打ち出すことはまた、再密封可能なラベルの開ける力および閉じる力を改善しうる、または制御しうるパターンを形成するように設計されてもよい。そのような工程が行われる場合、内側ライナーを打ち出すために、任意の適切な技法または技法の組み合わせが利用されうる。